

講義科目名称：職業指導

英文科目名称：Vocational Guidance

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	3年次	2単位	選択	講義
担当教員				
森慶輔				
教科に関する科目（教職関係）		高等学校教諭一種免許状（工業）		

授業概要	変動する社会の中で、社会的にも職業的にも未熟な若者が、自己にふさわしい職業を選択し、その後の生活に適応していく困難性は想像するに難くない。それは、実際に不応現象の拡がりとして顕在化しており、広い視野からの職業指導の実践への社会的要請が強まっている。この現実的視点にたつて、人と職業生涯に対する援助活動としての職業指導のあり方について理論的側面から検討するとともに、個々の生徒の発達段階に則して、その能力・適性等を伸長し、正しい職業観・勤労観の形成とともに、自主的に自己に望ましい職業を選択・決定させ、職業生活において自己充実、自己実現ができるよう指導・援助する実践的活動を学ぶ。			
授業計画	第1回	ガイダンス		
	第2回	職業指導／進路指導／キャリア教育の定義を知る		
	第3回	なぜ今キャリア教育が必要なのかを考える		
	第4回	小中学校におけるキャリア教育を知る—小中学校での取り組みを調べる		
	第5回	小中学校におけるキャリア教育を知る—小中学校での取り組みをプレゼンテーションする		
	第6回	高等学校におけるキャリア教育を知る—工業高校以外の高等学校での取り組みを調べる		
	第7回	高等学校におけるキャリア教育を知る—工業高校以外の高等学校での取り組みをプレゼンテーションする		
	第8回	高等学校におけるキャリア教育を知る—工業高校での取り組みを調べる		
	第9回	高等学校におけるキャリア教育を知る—工業高校での取り組みをプレゼンテーションする		
	第10回	高校におけるキャリア教育を知る—小中学校、工業高校を含む高等学校での取り組みをまとめる（含、レポート作成）		
	第11回	職業適性を踏まえた指導の在り方を考える		
	第12回	職業適性に関する検査を知る—VRTと内田クレペリン（予定）		
	第13回	職業適性に関する検査を知る—GATB（予定）		
	第14回	職業適性に関する検査を知る—検査結果を総合する		
	第15回	まとめ		
		アクティブラーニング 講義10回、プレゼンテーション3回、実習2回		
実務経験に基づく知識の伝達				
学修・教育目標に対する科目の位置付け	教職という全人格的教育の中心的課題である進路指導を行うに当たって個人の特性・能力の評価にとどまらず、専門分野にとらわれない幅広い視野と教育者としての倫理の確立を目指す。とりわけ「社会的・職業的に自己実現」するのに必要な自己指導力を伸ばす組織的・継続的指導と援助に関する知識と技能を身につけて、適切なキャリアエデュケーションが行える能力を習得する。			
	授業時間：90分×15回 予習復習の時間：3時間×15回			
教科書	未定（第1回の講義時に説明する。）			
参考書	講義内で紹介する。			
評価基準及び成績評価方法	1) 提出されたレポートで評価する。 2) 科目の性質上、欠席や遅刻が目立つ、受講態度が芳しくないなど、教職を目指す上で不適格であると判断される場合は単位を認定しない。			
達成度の伝達及び達成度評価	課題レポートのポイントを後日示す。 ◎達成度評価 () ① 幅広い視野と技術者倫理の涵養 () ② コミュニケーション能力と表現力の涵養			

	<input type="checkbox"/> ③ 自然科学の理解 <input type="checkbox"/> (100) ④ 専門知識の確実な修得と実務に応用できる能力の修得 <input type="checkbox"/> ⑤ 積極性と自己学修の習慣 <input type="checkbox"/> ⑥ 知識を統合し計画的に作業を進める能力の育成
資格情報	この科目は高等学校教諭一種免許状（工業）の取得に必要な科目である。
オフィスアワー	後日掲示にて周知する。
備考	1) 必ず第1回の授業に出席すること。正当な理由なく欠席した場合は履修を認めない。 2) この科目は高等学校一種免許状（工業）の教員免許取得希望者のみが受講できる。教員免許取得目的以外の学生は受講しないこと。 3) シラバスの内容は変更することもあり得る。変更する際は事前に周知する。
履修登録条件	卒業要件単位には含まれない。

講義科目名称：情報と職業

英文科目名称：Professin & Information Technology

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	3年次	2単位	選択	講義
担当教員				
池守滋				
教科に関する科目（教職関係）		高等学校教諭一種免許状（情報）		

授業概要	高等学校の教科「情報」において、情報技術の急速な進展に対応できる人材を育成するため、必要な基礎的な知識、情報モラル、情報技術者としての職業観、勤労観について学ぶ。
授業計画	<p>第1回 技術の発達とコンピュータ コンピュータの発達が、科学技術の発達に貢献し、さらに産業に与えた影響について理解する。</p> <p>第2回 情報産業の発展① 急速に発展するAIと関連する産業や職業について理解する。</p> <p>第3回 情報産業の発展② 急速に発展する情報産業の現状と将来について、調べ、まとめる。</p> <p>第4回 情報産業の発展③ 情報サービス関連会社について、調査したことを発表する。</p> <p>第5回 我が国の現状と課題 我が国のIT関係の現状と課題から、求められる人材等について理解する。</p> <p>第6回 情報技術者としての情報モラル① 情報技術者としての倫理観と学校教育での必要性について理解する。</p> <p>第7回 情報技術者としての情報モラル② 情報モラルに関する資料を用いて、プレゼンテーションを行う。</p> <p>第8回 情報技術者としての情報モラル③ 著作権などの産業財産権の保護について理解し、レポートにまとめる。</p> <p>第9回 情報技術者と情報セキュリティ ウイルスとその対策など具体的事例を通してセキュリティの重要性について理解する。</p> <p>第10回 リスク・マネジメント 情報社会におけるリスク・マネジメントについて、事例を通して理解する。</p> <p>第11回 情報技術者の勤労観 情報化の進展による労働環境の変化と情報技術者としての勤労観について理解する。</p> <p>第12回 情報技術者の職業観 高度情報化社会における職業観について理解する。</p> <p>第13回 学校教育と情報 学校教育における情報教育について、学校段階別に意義と現状を理解する。</p> <p>第14回 我が国の情報産業のこれから① 我が国の情報産業の今後とグローバル化への対応について、調査し、まとめる。</p> <p>第15回 我が国の情報産業のこれから② 我が国の情報産業について、まとめことを発表する。</p> <p>アクティブ・ラーニング プレゼンテーション：3回</p>
実務経験に基づく知識の伝達	授業者は高校教員の経験があり、実践的な事例を通して説明することができる。
学修・教育目標に対する科目の位置付け	情報と職業について基礎的な知識を習得し、教職に就いたときに実際に応用できる能力を身につける。（教育目標4） 授業時間：90分×15回 予習復習の時間：3時間×15回
教科書	適時プリントを配布する。
参考書	駒谷昇一・辰己丈夫「情報と職業（改訂2版）」オーム社、2015年
評価基準及び成績評価方法	課題レポート（40%）、発表（60%） 授業における参加態度等を含め総合的に判断する。
達成度の伝達及び達成度評価	発表においては、毎回、講評を行う。レポートは、講評を記して返却する。 ◎達成度評価 <input type="checkbox"/> ① 幅広い視野と技術者倫理の涵養 <input type="checkbox"/> ② コミュニケーション能力と表現力の涵養 <input type="checkbox"/> ③ 自然科学の理解 <input type="checkbox"/> ④ 専門知識の確実な修得と実務に応用できる能力の修得 <input type="checkbox"/> ⑤ 積極性と自己学修の習慣 <input type="checkbox"/> ⑥ 知識を統合し計画的に作業を進める能力の育成
資格情報	高等学校教諭一種免許状（情報）を取得するための必修科目である。

オフィスアワー	火曜日：11：00～12：00 2号館2階研究室
備考	1) 必ず第1回の授業に出席すること。正当な理由なく欠席した場合は履修を認めない。 2) 本科目は教職科目である。高校情報の教員免許取得希望者以外は履修しないこと。
履修登録条件	卒業要件単位には含まれない。

講義科目名称：教育心理学

英文科目名称：Educational Psychology

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	2年次	1単位	必修	講義
担当教員				
森慶輔				
教職専門科目	高等学校教諭一種免許状(工業)	高等学校教諭一種免許状(情報)	中学校教諭一種免許状(技術)	

授業概要	教育に関する現象は非常に広い範囲にわたっている。そのうち、発達、学習、教育評価、適応などについて心理学的に研究し、その成果を提供して教育の効率化適正化を図ろうとするのが教育心理学である。この科目では、実際に学校教員となったときに身につけていなければならない基本的な事柄について学ぶ。			
授業計画	第1回	認知・記憶の仕組み 教科書の該当箇所を事前に読んでおく		
	第2回	学習理論と教育 教科書の該当箇所を事前に読んでおく		
	第3回	学習意欲と教育 教科書の該当箇所を事前に読んでおく		
	第4回	知能と学力の測定 教科書の該当箇所を事前に読んでおく		
	第5回	学級集団と学級経営 教科書の該当箇所を事前に読んでおく		
	第6回	学習指導の理論と形態 教科書の該当箇所を事前に読んでおく		
	第7回	教育効果の測定と教育評価 教科書の該当箇所を事前に読んでおく		
	第8回	まとめ(試験と解説を含む予定)		
		アクティブラーニング 講義8回		
実務経験に基づく知識の伝達	教育心理学を研究領域とし、スクールカウンセラーとして学校現場で勤務した経験のある教員が、教育心理学全般にわたって講義する。			
学修・教育目標に対する科目の位置付け	幼児、児童及び生徒の学習の過程について、基礎的な知識を身につけ、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解する。 授業時間：90分×8回 予習復習の時間：3時間×8回			
教科書	石井正子・中村徳子 編著「教職に生かす教育心理学」みらい、2019年			
参考書	講義内で適宜紹介する。			
評価基準及び成績評価方法	授業への出席を前提として、定期考査により評価する予定だが、別の手段に変更する可能性もある。変更する場合は事前に周知する。			
達成度の伝達及び達成度評価	定期考査の解答例を示す。 ◎達成度評価 () ① 幅広い視野と技術者倫理の涵養 () ② コミュニケーション能力と表現力の涵養 () ③ 自然科学の理解 (100) ④ 専門知識の確実な修得と実務に応用できる能力の修得 () ⑤ 積極性と自己学修の習慣 () ⑥ 知識を統合し計画的に作業を進める能力の育成			
資格情報	中学校教諭、高等学校教諭一種免許状を取得するための必修科目である。			
オフィスアワー	後日掲示で周知する。			
備考	2019年度以降入学生の科目である。2018年度以前の入学生が本科目の履修を希望する場合は担当教員および教務課に相談すること。			
履修登録条件				

講義科目名称：教育基礎論

英文科目名称：Theory of Education Fundamentals

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	1年次	2単位	必修	講義
担当教員				
丸山剛史				
教職専門科目	高等学校教諭一種免許状(工業)	高等学校教諭一種免許状(情報)	中学校教諭一種免許状(技術)	

授業概要	教育とは、社会の側からの統制・維持の作用と、個人の側からの発達・適応・創造という二つの作用を弁証法的に実現する社会的営為であるといわれている。
授業計画	<p>第1回 教育とは 授業全体の導入として、受講者に「教育とは何か」について考えてもらいながら、教育、学校教育に関心をもてるようにする。</p> <p>第2回 教育、義務教育の始まり 教育と義務教育の始まりについて例をあげて説明し、教育や義務教育の社会的意義について理解させる。</p> <p>第3回 「学校」の誕生 「学校」は発明であるともいわれている。わが国における「学校」の始まりについて説明し、学校の社会的機能やわが国の学校の特殊性について理解させる。</p> <p>第4回 第二次大戦前日本の学校・教育課程・教師（ヘルバルト学派の教育論・教育実践の解説含む） わが国の学校教育について理解を深めるために、第二次大戦前の学校制度、教育課程、教師について、資料をもとに説明する。あわせて教育勅語、固定教科書など、戦前の教育の特徴的な事項について説明する。</p> <p>第5回 第二次大戦後日本の学校・教育課程・教師（アメリカ・カリキュラム改造史との関係説明含む） わが国の学校教育について理解を深めるために、第二次大戦後の学校制度、教育課程、教師について、資料をもとに説明する。あわせて教育基本法、学校教育法、学習指導要領など、戦後の教育の特徴的な事項について説明する。</p> <p>第6回 企業社会と教育・学歴主義 産業化が進化した社会にみられ、わが国の子ども達も苦悩させられる学歴主義について説明する。ここでは特に特殊日本的な企業内教育についても説明する。</p> <p>第7回 学力論：「日本型高学力」と学力低下論議 日本の子どもたちの学力には、他国ではみられない、「日本型高学力」とでもいうべき独特な性質をもっている。ここでは、「日本型高学力」の内容を説明する。</p> <p>第8回 カリキュラム・カリキュラム開発（デューイ、キクパトリックらの単元開発論の解説含む） 子どもたちの学びについて、教師が意図していなくても、子どもたちが勝手に学び取ってしまう「潜在的なカリキュラム」の問題がある。「潜在的なカリキュラム」問題を手がかりに、カリキュラムやカリキュラムづくりのあり方について考える。</p> <p>第9回 子どもの遊びと発達、遊びは学習の土台 子どもの遊びは、学習の土台であるといわれている。子どもの成長発達を促すとともに、豊かに学ぶための土台になる、子どもの遊びの教育的意義について考える。</p> <p>第10回 教育方法論(1)：生活綴り方、生活教育（ロック、ルソー、ペスタロッチ、デューイ、クルプスカヤの教育論の解説含む） 代表的な教育方法である生活綴り方、生活教育について事例を紹介しながら説明する。</p> <p>第11回 教育方法論(2)：討議・話し合い 民主主義を実現するために不可欠とされる討議・話し合いについて、実状や留意点を説明するとともに、テーマを設定して実践してもらい、教育的意義や実践上の難しさを理解させる。</p> <p>第12回 授業づくりの理論 学校教育、教師に求められる最も中心的な活動・営みとして授業がある。授業づくりについて説明し、授業と授業づくりについて理解を深める。</p> <p>第13回 学校経営・学級経営、教育条件整備 学校教育においては学校経営や学級経営といった経営的な問題もある。教育の内容ではないけれども、教育の外にあって内を守るものとして教育条件整備の問題もある。こうした学校、教師を取り巻く問題について理解を深めてもらう。</p> <p>第14回 教師論：日本型教師像 教師とはどうあるべきか。わが国には、日本型教師像とでもいうべき独特の教師像がある。他国の教師像とどのように異なるか、なぜ日本型教師像が生まれたのかについて説明する。</p> <p>第15回 まとめ これまでの授業を振り返り、授業科目で学んだことを確認する。</p> <p>◆アクティブ・ラーニング◆ 毎回(15回)の授業において授業終了時に感想等を書いてもらう。また、15回の授業のいずれかにおいて1人1回は意見発表を求める。さらに、テーマによってはグループディスカッションを行うことがある。</p>
実務経験に基づく知識の伝達	担当教員は、小・中学校非常勤講師の実務経験を活かし、子どもの生活の背景や授業づくりの基礎知識について講義する。
学修・教育目標に対する科目の位置付け	<p>「教育基礎論」は本学が付与する教員免許に必要な教職科目である。「教職論」とともに教職科目としては最初の1年次後期に配当されており、教職の必修科目であるから教員免許を取得しようと思う者は全員履修しなければならない。本科目は「教育基礎論」との名称に示されるように、教育とは何か、なぜ人間は教育が必要なのか、といった教育の本質や原理に関する科目である。2年次以降の教職科目、例えば教育課程論、特別活動の指導法、教育制度論、生徒指導論など、学校教育に関する各論の基礎にもなる。</p> <p>授業時間：90分×15回 予習復習の時間：3時間×15回</p>
教科書	特に指定しない。必要に応じて資料を配布する。

参考書	堀尾輝久『教育入門』（岩波新書、1989年）、木村元『学校の戦後史』（岩波新書、2015年）
評価基準及び成績 評価方法	試験で60点以上を合格とする。また、学習態度も参考にする。
達成度の伝達及び 達成度評価	「ワークシート」を用意し、コメントを記すなどして達成度の伝達を行います。 ◎達成度評価 <input type="checkbox"/> ① 幅広い視野と技術者倫理の涵養 <input type="checkbox"/> ② コミュニケーション能力と表現力の涵養 <input type="checkbox"/> ③ 自然科学の理解 (100)④ 専門知識の確実な修得と実務に応用できる能力の修得 <input type="checkbox"/> ⑤ 積極性と自己学修の習慣 <input type="checkbox"/> ⑥ 知識を統合し計画的に作業を進める能力の育成
資格情報	
オフィスアワー	授業の前後に教室にて対応します。
備考	
履修登録条件	

講義科目名称：教職論

英文科目名称：Theory of Teachers

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	1年次	2単位	必修	講義
担当教員				
池守滋				
教職専門科目	高等学校教諭一種免許状(工業)	高等学校教諭一種免許状(情報)	中学校教諭一種免許状(技術)	

授業概要	理想の教師像について話し合い、教職の意義や教職を学ぶ上での心構えを理解する。教員の役割・資質能力・職務内容、専門職としての教員の在り方、職務の専門性を学ぶ。また、教職観の変遷と教員として求められる資質・能力及び新しい課題に対応するために常に学ぶ姿勢が大切であることを学ぶ。
授業計画	<p>第1回 教師とは 理想の教師像について話し合い、教職の意義・心構えを理解する。</p> <p>第2回 教職の意義 公教育の目的や学校教育の今日的課題、教職の職業的特徴について理解し、グループ協議を行い、発表する。</p> <p>第3回 教員養成制度 教員養成制度と教育職員免許法について理解する。教員免許更新制度についても理解を深める。</p> <p>第4回 「専門職」としての教師① 教職観の変遷について、中央教育審議会の答申等を通して、求められる教師像についてグループで協議し発表する。</p> <p>第5回 「専門職」としての教師② 専門職の要件と教師の役割及び求められる資質能力や教育理論について理解する。</p> <p>第6回 教員の仕事と役割① 学級担任の役割と学級経営について理解する。</p> <p>第7回 教員の仕事と役割② 教科指導と学習指導要領、主体的・対話的で深い学びについて理解する。将来の教師として身に付けるべきことについてグループで協議し発表する。</p> <p>第8回 教員の仕事と役割③ 生徒理解と生徒指導、教育相談について理解する。</p> <p>第9回 教員の仕事と役割④ 進路指導と校務処理、部活動、保護者への対応などについて理解する。</p> <p>第10回 学校の組織と学校経営 学校の役割と組織との関係や学校経営、カリキュラム・マネジメントについて理解する。</p> <p>第11回 チーム学校への対応 校内ばかりでなく外部の専門家とも連携・分担して、様々な課題に対応する必要性について理解する。</p> <p>第12回 教員の研修 教員研修の意義と制度及びライフステージに応じた学びについて理解する。</p> <p>第13回 教員の勤務とサービス① 教員の職務内容やサービス上・身分上の義務と身分保障について理解する。</p> <p>第14回 教員の勤務とサービス② 教員の服務規程など関係法令及び教員の種類について理解する。</p> <p>第15回 新しい教育課題への対応 いじめ、不登校、中途退学や性同一性障害など様々な教育課題について、調査しレポートを作成する。 アクティブ・ラーニング グループ協議：3回</p>
実務経験に基づく知識の伝達	授業担当者の学校教員経験、県教育委員会や文部科学省の教育行政経験により、事例を挙げるなど実践的な説明ができる
学修・教育目標に対する科目の位置付け	現代社会における教職の重要性の高まりを背景に、教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容等について身に付け、教職への意欲を高め、さらに適性を判断し、進路選択に資する教職の在り方を理解する。(教育目標1) 授業時間：90分×15回 予習復習の時間：3時間×15回
教科書	教職必修 新教職論 改訂版(教職課程研究会編：実教出版)
参考書	適時プリントを配布する。
評価基準及び成績評価方法	課題、試験 授業への積極的参加の態度などを総合的に判断する。
達成度の伝達及び達成度評価	レポート及び試験の解説等を行う。 ◎達成度評価 (100)① 幅広い視野と技術者倫理の涵養 ()② コミュニケーション能力と表現力の涵養 ()③ 自然科学の理解 ()④ 専門知識の確実な修得と実務に応用できる能力の修得 ()⑤ 積極性と自己学修の習慣

	() ⑥ 知識を統合し計画的に作業を進める能力の育成
資格情報	高等学校教諭一種免許状（工業、情報）、中学校教諭一種免許状（技術）を取得するための必修科目である。
オフィスアワー	火曜日：11：00～12：00 2号館2階研究室
備考	「教職論」は、教職資格取得に必要な教職科目のひとつで、教職、学校の教師の仕事、教師のあり方など教職の基本について学ぶ科目である。教職を目指す、あるいはまだ将来の職業がはっきりしていなくとも教職の資格を取得しようと思っている学生は積極的に受講して欲しい。 必ず第1回の授業に出席すること。
履修登録条件	

講義科目名称：教育制度論

英文科目名称：Theory of Education Systems

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	2年次	2単位	必修	講義
担当教員				
池守滋				
教職専門科目	高等学校教諭一種免許状(工業)	高等学校教諭一種免許状(情報)	中学校教諭一種免許状(技術)	

授業概要	公教育の原理と意義及び教育制度の理念、教育制度に係る法規について学ぶ。我が国の教育制度の成り立ちと各学齢段階における教育制度及び外国の教育制度について学ぶ。また、学校を支える教育行政と財政について学ぶ。学校の教職員と地域の関係者や機関・専門家との連携・協働によるチームで教育活動を行うことや開かれた学校づくりの意義と重要性を学ぶ。具体的な事例を通して、学校の安全管理と生徒への安全教育の必要性及び危機管理や事故対応について学ぶ。
授業計画	<p>第1回 学校と教育制度 我が国の学校と教育制度について、グループごとに意見をまとめ、発表する。</p> <p>第2回 公教育とは 公教育の原理と意義及び教育制度の理念について理解する。</p> <p>第3回 教育制度と法令 教育制度に係る法規について理解する。</p> <p>第4回 教育制度の成り立ちと歴史 明治時代からの教育制度の成り立ちと我が国における歴史的変遷について理解する。</p> <p>第5回 戦後の教育制度とこれから 戦後の教育制度について理解し、今後の教育制度の展望についてレポートにまとめる。</p> <p>第6回 就学前教育と初等教育制度 幼児期の就学前教育制度と初等教育制度について理解する。</p> <p>第7回 中等教育制度 我が国における中等教育制度について理解する。</p> <p>第8回 高等教育制度 高等教育制度及びその他の教育制度について理解する。</p> <p>第9回 外国の教育制度 諸外国の教育制度について、我が国との違いを理解する。</p> <p>第10回 教育課程制度 教育課程の編成と学校、文部科学省と教育委員会の役割と学習指導要領、教科書検定制度及び関連する法令について理解する。</p> <p>第11回 教育行政制度 文部科学省と都道府県教育委員会及び市町村教育委員会の役割と業務、組織について理解する。</p> <p>第12回 教育財政制度 学校教育を支える教育財政制度、義務教育費国庫負担制度などについて理解する。</p> <p>第13回 教育制度の課題と改革の方向 教育制度の課題について調べ、その改革の方向性について協議する。</p> <p>第14回 学校と地域 学校の教職員と地域の関係者や機関・専門家との連携・協働によるチームで教育活動を行うことの重要性を理解する。また、学校の教職員と地域の関係機関との連携による開かれた学校づくりの意義と重要性を理解する。</p> <p>第15回 学校の安全 学校を取り巻く事件、事故の事例を通して、学校の安全管理と生徒への安全教育の必要性を理解する。新潟中部地震や東日本大震災などの事例を通して、危機管理や事故対応について理解する。また、新たな安全上の課題について、グループで協議し発表する。 アクティブ・ラーニング グループ協議：2回</p>
実務経験に基づく知識の伝達	授業担当者の学校教員経験、県教育委員会や文部科学省の教育行政経験により、事例を挙げるなど実践的な説明ができる。
学修・教育目標に対する科目の位置付け	現代の学校教育制度について、基礎的な知識を身につけるとともに、関連する課題を理解する。学校と地域との連携に関する理解及び学校安全への対応に関する基礎的な知識も身につける。(教育目標1) 授業時間：90分×15回 予習復習の時間：3時間×15回
教科書	2021年度版 必携教職六法(若井 監修 協同出版株式会社)
参考書	適時プリントを配布する。
評価基準及び成績評価方法	課題(30%)、定期試験(70%) 授業への積極的参加の態度などを総合的に判断する。
達成度の伝達及び達成度評価	試験の結果については、講評、解説をおこなう。 ◎達成度評価 (100)① 幅広い視野と技術者倫理の涵養 ()② コミュニケーション能力と表現力の涵養

	<input type="checkbox"/> ③ 自然科学の理解 <input type="checkbox"/> ④ 専門知識の確実な修得と実務に応用できる能力の修得 <input type="checkbox"/> ⑤ 積極性と自己学修の習慣 <input type="checkbox"/> ⑥ 知識を統合し計画的に作業を進める能力の育成
資格情報	高等学校教諭一種免許状（工業、情報）、中学校教諭一種免許状（技術）を取得するための必修科目である。
オフィスアワー	火曜日：13：00～14：00 2号館2階研究室
備考	教員免許の取得希望者は必ず受講すること。 必ず第1回の授業に出席すること。
履修登録条件	

講義科目名称：教育課程論

英文科目名称：Curriculum Management

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	2年次	2単位	必修	講義
担当教員				
黒羽正見				
教職専門科目	高等学校教諭一種免許状(工業)	高等学校教諭一種免許状(情報)	中学校教諭一種免許状(技術)	

授業概要	実際に教師の日常的職務活動の具体的場面に即して、教室レベルの教育課程経営の体験活動を通して、教育実践者としての「教育課程を経営する意味」のリアリティに接近する。
授業計画	<p>第1回 教育課程の意義：教育課程の概念と種類</p> <p>第2回 教育課程の歴史：近代から現代、そしてこれからの教育課程</p> <p>第3回 学校教育における教育課程の現代的課題とその解決方法</p> <p>第4回 学習指導要領の意義と変遷</p> <p>第5回 教育課程の編成原理：教育内容の構成とカリキュラム</p> <p>第6回 教育課程の編成原理：カリキュラム開発と学校改善</p> <p>第7回 教育課程の評価：学校経営者としての評価</p> <p>第8回 教育課程の評価：評価の理論と方法</p> <p>第9回 幼稚園・小学校の教育課程の編成</p> <p>第10回 中学校・高等学校の教育課程の編成</p> <p>第11回 特別支援教育の教育課程の編成</p> <p>第12回 総合的な学習の時間の教育課程</p> <p>第13回 教育課程と教師の成長の関係</p> <p>第14回 教育課程とカリキュラム・マネジメントの関係</p> <p>第15回 学校を基礎に置いた教育課程をつくる</p> <p>◆アクティブ・ラーニング◆</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループワーク(12回) ・ロールプレイ(1回) ・シミュレーション(1回) ・実習(1回)
実務経験に基づく知識の伝達	小中学校の実務経験を生かして、教科カリキュラムや経験カリキュラムの模範的なカリキュラム実践例を紹介しながら、教室レベルにおける教育課程とカリキュラム実践の使い分けについて理解できるようにする。
学修・教育目標に対する科目の位置付け	動きのない紙面上の教育課程(計画・内容)から生徒との相互行為として「教師が教育課程をつくる」意味の理解を実践的に深める。 授業時間：90分×15回 予習復習の時間：3時間×15回
教科書	稲垣応顕・黒羽正見編「学際型現代学校教育概論」金子書房
参考書	
評価基準及び成績評価方法	毎時間の振り返りシート、レポート、出席状況、学習態度等を参考にする。
達成度の伝達及び達成度評価	◎達成度評価 (100) ① 幅広い視野と技術者倫理の涵養 () ② コミュニケーション能力と表現力の涵養 () ③ 自然科学の理解 () ④ 専門知識の確実な修得と実務に応用できる能力の修得 () ⑤ 積極性と自己学修の習慣

	() ⑥ 知識を統合し計画的に作業を進める能力の育成
資格情報	
オフィスアワー	
備考	
履修登録条件	

講義科目名称：工業科教育法 I

英文科目名称：Technological Education Methods 1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	3年次	2単位	必修	講義
担当教員				
池守滋				
教職専門科目		高等学校教諭一種免許状(工業)		

授業概要	我が国における産業振興と工業教育の成り立ちと役割、戦後の経済発展と工業高校との関連、高等学校学習指導要領の変遷及び教科「工業」の科目構成と学習内容について学ぶ。また、具体的な授業をデザインすることで授業計画と学習指導案について学び、情報機器を活用した模擬授業を実践する。			
授業計画	第1回	我が国の工業教育の成り立ちと工業教育 明治期の近代産業の起こりと工業教育の成り立ちを理解する。		
	第2回	産業の発展と工業教育 戦後の経済発展や教育改革などと工業高校との関係について理解する。		
	第3回	高等学校学習指導要領① 学習指導要領の変遷と教科「工業」の関係について理解する。		
	第4回	高等学校学習指導要領② 学習指導要領の構成と教科「工業」及び総則における職業に関する教科について理解する。		
	第5回	高等学校学習指導要領における工業科の科目構成① 教科「工業」の科目構成と原則履修科目・共通科目の学習内容について理解する。		
	第6回	高等学校学習指導要領における工業科の科目構成② 各分野の専門科目（機械、電子機械、造船、自動車、電気、電子、情報技術）の学習内容について理解する。		
	第7回	高等学校学習指導要領における工業科の科目構成③ 各分野の専門科目（建築、設備、土木、工業化学、インテリア、材料技術、繊維、デザイン）の学習内容について理解する。		
	第8回	高等学校学習指導要領における工業科の科目構成④ 各分野の専門科目の学習内容及び内容の取り扱いについて理解する。		
	第9回	工業科の授業デザイン① 授業計画の立て方と学習指導案について理解する。		
	第10回	工業科の授業デザイン② 学習指導案と板書計画、授業の進め方について理解する。また、情報機器の効果的な活用法について理解する。		
	第11回	工業科の授業デザイン③ 学習指導案の作成演習を行う。		
	第12回	工業科の授業① 情報機器を活用した模擬授業を実施する。演示なども取り入れる。		
	第13回	工業科の授業② 情報機器を活用した模擬授業を実施し、振り返りと受講生による相互評価を行う。		
	第14回	学習評価 学習と定着、様々な学習方法と学習評価について理解する。また、模擬授業における学習評価方法を検討する。		
	第15回	工業における主体的、対話的な学習 教科「工業」における主体的、対話的な学習及び深い学びについて、先進事例及び発展的な学習事例を通して理解する。 アクティブ・ラーニング プレゼンテーション：2回 相互評価：2回		
実務経験に基づく知識の伝達	担当者の学校教員経験により、実践的な授業デザインのアドバイスすることができる。			
学修・教育目標に対する科目の位置付け	教科「工業」における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された教科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。（教育目標1） 授業時間：90分×15回 予習復習の時間：3時間×15回			
教科書	高等学校学習指導要領解説 工業編（平成30年、文部科学省）			
参考書	新しい観点と実践に基づく工業科教育法の研究 改訂版（2019年2月、中村 他、実教出版） 高等学校学習指導要領（平成30年3月、文部科学省） 高等学校学習指導要領解説 総則編（平成30年、文部科学省）			
評価基準及び成績評価方法	課題の提出（20%）、学習指導案・模擬授業（20%）、定期試験（60%） 授業への積極的参加の態度などを総合的に判断する。			
達成度の伝達及び達成度評価	発表においては、毎回、講評を行う。レポートは、講評を記して返却する。 ◎達成度評価 （100）① 幅広い視野と技術者倫理の涵養			

	<input type="checkbox"/> ② コミュニケーション能力と表現力の涵養 <input type="checkbox"/> ③ 自然科学の理解 <input type="checkbox"/> ④ 専門知識の確実な修得と実務に応用できる能力の修得 <input type="checkbox"/> ⑤ 積極性と自己学修の習慣 <input type="checkbox"/> ⑥ 知識を統合し計画的に作業を進める能力の育成
資格情報	高等学校教諭一種免許（工業）を取得するための必修科目である。
オフィスアワー	火曜日：13：00～14：00 2号館2階研究室
備考	高等学校教諭一種免許（工業）の取得希望者は必ず受講すること。 必ず第1回の授業に出席すること。正当な理由なく欠席した場合は履修を認めない。
履修登録条件	

講義科目名称：工業科教育法Ⅱ

英文科目名称：Technological Education Methods 2

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	3年次	2単位	選択	講義
担当教員				
池守滋				
教職専門科目		高等学校教諭一種免許状(工業)		

授業概要	諸外国の工業教育や我が国の後期中等教育に影響を与えた科学技術の進展、グローバル化などについて学ぶ。工業科目の教育課程の編成方法や考え方を学び、学習評価や課題研究の指導方法、テーマの設定などを実践する。工業に関する発展的な内容について、構想でき模擬授業を行う。また、特色ある教育課程や先進的取り組みについて事例を通して、実習装置の安全管理と安全作業についても学ぶ。			
授業計画	第1回	諸外国の工業教育 諸外国の教育制度と工業教育について理解する。		
	第2回	産業に関わる資源と環境 産業を支える資源（エネルギー）の現状と環境問題などと工業教育の関連について理解を深める。		
	第3回	工業教育の現状 我が国の教育改革と工業教育の現状について理解する。		
	第4回	工業高校の教育課程① 教育課程を編成する上での高等学校学習指導要領の共通教科と専門教科について理解する。		
	第5回	工業高校の教育課程② 工業科目の編成、小学科の種類と教育課程について理解する。教育課程の編成の演習を行う。		
	第6回	工業の年間指導計画 工業の専門科目の年間指導計画の立て方と考え方について理解し、レポートにまとめる。		
	第7回	学習と評価① 学習評価と評定、評価の考え方を理解する。		
	第8回	学習と評価② 観点別学習評価と新しい学習評価について理解する。		
	第9回	課題研究の指導① 科目「課題研究」の学習テーマを提案し、授業計画を立案し、レポートにまとめる。		
	第10回	課題研究の指導② 科目「課題研究」の学習テーマ、授業計画について発表し、相互評価する。		
	第11回	実習装置の管理と安全作業 実験・実習に関わる機器の管理、安全作業とヒヤリハット、関係法令について理解する。		
	第12回	工業に関する発展的な学習内容① 工業の専門科目に関する発展的な学習内容を探求し、学習テーマを提案する。		
	第13回	工業に関する発展的な学習内容② 工業の専門科目に関する発展的な学習内容について、学習指導案を作成し、相互評価する。		
	第14回	工業に関する発展的な学習内容③ 工業の専門科目に関する発展的な学習内容について、模擬授業を実施する。		
	第15回	これからの工業教育と工業高校 工業高校での新しい取り組みや指導法などについて理解する。 アクティブ・ラーニング プレゼンテーション：2回 相互評価：2回		
実務経験に基づく知識の伝達	担当者の学校教員経験により、実践的な授業デザインのアドバイスすることができる。			
学修・教育目標に対する科目の位置付け	教科「工業」における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された教科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。（教育目標1） 授業時間：90分×15回 予習復習の時間：3時間×15回			
教科書	中村豊久 他：新しい観点と実践に基づく 工業科教育法の研究 改訂版（実教出版） 文部科学省：高等学校学習指導要領解説 工業編			
参考書	適宜指示する。			
評価基準及び成績評価方法	課題（30%）、学習指導案（30%）、模擬授業（40%） 授業への積極的参加や発表の態度などを総合的に判断する。			
達成度の伝達及び達成度評価	発表においては、毎回、講評を行う。レポートは、講評を記して返却する。 ◎達成度評価 (100) ① 幅広い視野と技術者倫理の涵養 () ② コミュニケーション能力と表現力の涵養			

	<input type="checkbox"/> ③ 自然科学の理解 <input type="checkbox"/> ④ 専門知識の確実な修得と実務に応用できる能力の修得 <input type="checkbox"/> ⑤ 積極性と自己学修の習慣 <input type="checkbox"/> ⑥ 知識を統合し計画的に作業を進める能力の育成
資格情報	高等学校教諭一種免許状（工業）を取得するための科目である。
オフィスアワー	火曜日：11：00～12：00 2号館2階の研究室にて
備考	「工業科教育法Ⅰ」を受講したものに限る。高校工業の教員志望者は、必ず受講すること。
履修登録条件	

講義科目名称：情報科教育法 I

英文科目名称：Information Education Methods 1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	3年次	2単位	必修	講義
担当教員				
碓井健文				
教職専門科目	高等学校教諭一種免許状(情報)			

授業概要	社会の情報化の進展に主体的に対応できる能力と態度の育成に向けて、生徒が情報及び情報技術を活用するための知識と技能の修得するための指導方法とともに、これらに対する興味関心、意欲の喚起、問題解決能力、創意工夫力などの育成についての指導方法を学習する。さらに各科目の具体的な指導方法と、授業計画や各授業の構成について学習する。			
授業計画	第1回	小・中学校における情報教育の実態、および、共通教科情報科の目標と、それに沿った基本的な指導方法の解説 学習指導要領解説を参考にして、配布資料等の未記入部分を記入する。		
	第2回	コンピュータの発達とそれに伴う共通教科情報科関連の情報教育の進展及び海外の情報教育の解説 学習指導要領解説を参考にして、配布資料等の未記入部分を記入する。		
	第3回	共通教科情報科における生徒の関心・意欲・態度の育成 配布資料等を参考にして、関心・意欲・態度の具体的な育成方法を考案する。		
	第4回	共通教科情報科教育を効果的に進めるための指導計画、授業構成 学習指導要領解説、配布資料等を参考にして、指導計画を立案する。		
	第5回	共通教科情報科を効果的に進めるための教材・教具の開発と活用 学習指導要領解説、配布資料等を参考にして、教材・教具を立案する。		
	第6回	共通教科情報科における生徒の問題解決能力、創意工夫能力育成のための指導方法 学習指導要領解説、配布資料等を参考にして、指導計画を立案する。		
	第7回	共通教科情報科の学習指導案の構成と内容と実践例の解説 学習指導要領解説、配布資料等を参考にして、学習指導案を立案する。		
	第8回	共通教科情報科の学習指導案に関連した指導の工夫 学習指導要領解説、配布資料等を参考にして、学習指導案に沿った授業を練習する。		
	第9回	社会と情報の目標とその基本的な指導方法、指導計画について 学習指導要領解説、配布資料等を参考にして、指導計画を立案する。		
	第10回	情報の科学の目標とその基本的な指導方法、指導計画について 学習指導要領解説、配布資料等を参考にして、指導計画を立案する。		
	第11回	情報社会の課題と情報モラル：情報化が社会に及ぼす影響の指導内容と指導方法 学習指導要領解説、配布資料等を参考にして、指導計画を立案する。		
	第12回	情報社会の課題と情報モラル：情報セキュリティの確保の指導内容と指導方法 学習指導要領解説、配布資料等を参考にして、指導計画を立案する。		
	第13回	情報社会の課題と情報モラル：情報セキュリティの確保と情報社会における法と個人の責任についての指導内容と指導方法 学習指導要領解説、配布資料等を参考にして、指導計画を立案する。		
	第14回	共通教科情報科の学力構造と評価の基本：関心・意欲・態度、知識・理解、創意工夫の評価方法 学習指導要領解説、配布資料等を参考にして、評価計画を立案する。		
	第15回	共通教科情報科の学力構造と評価の実践例の解説と授業診断 授業内容を参考にして、教育実習での必要事項・内容をまとめる。 ◆アクティブ・ラーニング◆ 模擬授業（プレゼンテーション） 1回 グループワーク 5回		
実務経験に基づく知識の伝達	高等学校教諭としての実務経験を持つ教員が、高等学校における授業実施に関する成功事例や失敗事例を紹介し、高等学校における教科情報の授業とはどのように展開されているかを説明する。			
学修・教育目標に対する科目の位置付け	共通教科情報科を指導するための教育的能力を養成する。 授業時間：90分×15回 予習復習の時間：3時間×15回			
教科書	文部科学省『高等学校学習指導要領解説 情報編』 など			
参考書	高等学校「情報」教科書 など			
評価基準及び成績評価方法	講義中のグループワーク内容や、学習指導案等のレポートを評価する。また、模擬授業の内容を相互評価する。これらの総合評価で60点以上を合格とする。学習態度なども参考にする。			
達成度の伝達及び達成度評価	レポートの評価結果を知らせる。評価に疑問がある学生に対してはレポートを示して説明する。 ◎達成度評価 (100) ① 幅広い視野と技術者倫理の涵養 () ② コミュニケーション能力と表現力の涵養 () ③ 自然科学の理解 () ④ 専門知識の確実な修得と実務に応用できる能力の修得 () ⑤ 積極性と自己学修の習慣			

	() ⑥ 知識を統合し計画的に作業を進める能力の育成
資格情報	
オフィスアワー	
備考	
履修登録条件	

講義科目名称：情報科教育法Ⅱ

英文科目名称：Information Education Methods 2

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	3年次	2単位	選択	講義
担当教員				
碓井健文				
教職専門科目	高等学校教諭一種免許状(情報)			

授業概要	情報化の進展に主体的に対応できる能力と態度の育成(情報処理技術者の育成)に向けて、現代社会における情報の意義や役割を理解し、情報の各分野に関する知識と技術を習得するとともに、各分野の授業計画や各授業の構成について学習する。指導に関わって、生徒の興味関心、意欲の喚起、問題解決能力、創意工夫力などの育成についての指導方法を学習する。さらに、課題研究の指導方法、実験・実習の教材・教具と具体的な指導方法について学習する。			
授業計画	<p>第1回 専門教科情報科の目標と科目編成の理解及び改訂の内容と経緯 学習指導要領解説を参考にして、配布資料等の未記入部分を記入する。</p> <p>第2回 「情報産業と社会」に関連して基礎的な知識と技術の内容とその指導方法情報産業への興味・関心の喚起の指導方法 学習指導要領解説、配布資料等を参考にして、具体的に興味・関心の喚起の指導方法を考案する。</p> <p>第3回 情報産業と情報技術の指導の内容と指導方法 学習指導要領解説を参考にして、配布資料等の未記入部分を記入する。</p> <p>第4回 情報産業と情報モラルの指導内容と指導方法 学習指導要領解説を参考にして、配布資料等の未記入部分を記入する。学習指導要領解説、配布資料等を参考にして、具体的にモラルの指導方法を考案する。</p> <p>第5回 情報の表現と管理の指導内容と指導方法指導事例研究 学習指導要領解説、配布資料等を参考にして、学習指導案を考案する。</p> <p>第6回 情報と問題解決の指導内容と指導方法指導事例研究 学習指導要領解説、配布資料等を参考にして、学習指導案を考案する。</p> <p>第7回 情報テクノロジーの指導内容と指導方法指導事例研究 学習指導要領解説、配布資料等を参考にして、学習指導案を考案する。</p> <p>第8回 システム設計・管理分野のアルゴリズムとプログラムの指導内容と指導方法実習の事例研究 学習指導要領解説、配布資料等を参考にして、学習指導案を考案する。</p> <p>第9回 システム設計・管理分野のネットワークシステムの指導内容と指導方法実習の事例研究 学習指導要領解説、配布資料等を参考にして、学習指導案を考案する。</p> <p>第10回 システム設計・管理分野のデータベースの指導内容と指導方法実習の事例研究 学習指導要領解説、配布資料等を参考にして、学習指導案を考案する。</p> <p>第11回 情報コンテンツの制作・発信分野の情報メディアの指導内容と指導方法実習の事例研究 学習指導要領解説、配布資料等を参考にして、学習指導案を考案する。</p> <p>第12回 情報コンテンツの制作・発信分野の情報デザイン及び表現メディアの編集と表現の指導内容と指導方法実習の事例研究 学習指導要領解説、配布資料等を参考にして、学習指導案を考案する。</p> <p>第13回 課題研究の目標と内容の理解と基本的な指導方法課題研究(調査、研究、実験と作品の制作)の事例研究 学習指導要領解説、配布資料等を参考にして、学習指導案を考案する。</p> <p>第14回 課題研究(産業現場等における実習、職業資格の取得)の事例研究 学習指導要領解説、配布資料等を参考にして、学習指導案を考案する。</p> <p>第15回 専門教科情報科の学力構造と評価の実践例の解説と授業診断 授業内容を参考にして、教育実習での必要事項・内容をまとめる。</p> <p>◆アクティブ・ラーニング◆ 模擬授業(プレゼンテーション) 1回 グループワーク 5回</p>			
実務経験に基づく知識の伝達	高等学校教諭としての実務経験を持つ教員が、高等学校における授業実施に関する成功事例や失敗事例を紹介し、高等学校における専門教科の授業とはどのように展開されているかを説明する。			
学修・教育目標に対する科目の位置付け	専門教科情報科を指導するための教育的能力を養成する。 授業時間：90分×15回 予習復習の時間：3時間×15回			
教科書	文部科学省『高等学校学習指導要領解説 情報編』 など			
参考書	高等学校「情報」教科書 など			
評価基準及び成績評価方法	講義中のグループワーク内容や、学習指導案等のレポートを評価する。また、模擬授業の内容を相互評価する。これらの総合評価で60点以上を合格とする。学習態度なども参考にする。			
達成度の伝達及び達成度評価	レポートの評価結果を知らせる。評価に疑問がある学生に対してはレポートを示して説明する。 ◎達成度評価 (100) ① 幅広い視野と技術者倫理の涵養 () ② コミュニケーション能力と表現力の涵養 () ③ 自然科学の理解			

	() ④ 専門知識の確実な修得と実務に応用できる能力の修得 () ⑤ 積極性と自己学修の習慣 () ⑥ 知識を統合し計画的に作業を進める能力の育成
資格情報	
オフィスアワー	
備考	
履修登録条件	

講義科目名称：技術科教育法 I

英文科目名称：Methods of Technology Education 1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	2 年次	2 単位	選択	講義
担当教員				
池守滋				
教職専門科目		中学校教諭一種免許状（技術）		

授業概要	我が国における科学技術の発展と技術教育の変遷及び意義、中学校学習指導要領での技術分野の変遷、教科「技術・家庭」科と技術分野の学習内容について学ぶ。また、年間指導計画を立案し、相互評価を行う。生徒の学習評価の理論と最新の学習評価方法についても学ぶ。			
授業計画	第1回	技術科教育について 中学校における技術教育の位置づけ、技術教育の意義を理解する。		
	第2 回	科学技術の進展と技術教育① 科学技術及び産業の変遷と技術教育のはじまりについて理解する。		
	第3回	科学技術の進展と技術教育② 戦後の科学技術及び産業の変遷と学習指導要領における技術科の教育内容について理解する。		
	第4回	科学技術の進展と技術教育③ 我が国の現状と教育改革の方向及び技術科教育について理解する。		
	第5回	中学校学習指導要領① 中学校学習指導要領の改訂の趣旨と構成、内容、総則、教科、道徳、総合的な学習の時間、特別活動について理解する。		
	第6回	中学校学習指導要領② 中学校学習指導要領における技術・家庭の目標と技術分野の目標について理解する。		
	第7回	中学校学習指導要領③ 技術分野の学習内容(A)、(B)について理解する。		
	第8回	中学校学習指導要領④ 技術分野の学習内容(C)、(D)について理解する。		
	第9回	中学校学習指導要領⑤ 中学校の技術分野と小学校との関連及び家庭分野との関係について理解する。		
	第10回	技術分野の年間指導計画① 参考資料を活用し、技術分野の3年間の指導計画を立案する。		
	第11回	技術分野の年間指導計画② 作成した技術分野の1年生の年間指導計画を発表し、相互評価する。		
	第12回	技術分野の年間指導計画③ 作成した技術分野の2年生または3年生の年間指導計画を発表し、相互評価する。		
	第13回	学習指導と評価① 学習指導における評価の理論、技術教育における技能の評価方法について理解する。		
	第14回	学習指導と評価② 各学習内容に関する観点別学習評価について理解する。		
	第15回	学習指導と評価③ 新しい学習評価方法について理解する。 アクティブ・ラーニング プレゼンテーション：2回 相互評価：2回		
実務経験に基づく知識の伝達	担当者の学校教員及び教育行政経験により、具体的、実践的な説明をすることができる。			
学修・教育目標に対する科目の位置付け	中学校「技術」における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された教科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。（教育目標1） 授業時間：90分×15回 予習復習の時間：3時間×15回			
教科書	中学校学習指導要領解説 技術・家庭編（平成29年、文部科学省、開隆堂）			
参考書	中学校新学習指導要領の展開 技術・家庭 技術分野編（平成29年11月、古川稔、明治図書） 中学校学習指導要領（平成29年3月、文部科学省、東山書房） 中学校学習指導要領解説 総則編（平成29年、文部科学省、東山書房）			
評価基準及び成績評価方法	課題（20%）、発表（20%）、定期試験（40%） 授業への積極的な参加態度などを総合的に判断する。			
達成度の伝達及び達成度評価	課題、試験について講評・解説等を行う。 ◎達成度評価 （100）① 幅広い視野と技術者倫理の涵養 （ ）② コミュニケーション能力と表現力の涵養			

	<input type="checkbox"/> ③ 自然科学の理解 <input type="checkbox"/> ④ 専門知識の確実な修得と実務に応用できる能力の修得 <input type="checkbox"/> ⑤ 積極性と自己学修の習慣 <input type="checkbox"/> ⑥ 知識を統合し計画的に作業を進める能力の育成
資格情報	中学校教員免許第一種（技術）を取得するための必修科目である。
オフィスアワー	火曜日：13：00～14：00 2号館2階研究室
備考	中学校教諭一種免許（技術）の取得希望者は必ず受講すること。 必ず第1回の授業に出席すること。正当な理由なく欠席した場合は履修を認めない。
履修登録条件	

講義科目名称：技術科教育法Ⅱ

英文科目名称：Methods of Technology Education 2

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	2年次	2単位	選択	講義
担当教員				
池守滋				
教職専門科目		中学校教諭一種免許状（技術）		

授業概要	中学校学習指導要領と実際の教科書との対比により、学習内容及び教材の効果的な活用法について学ぶ。技術科に適した指導法について、グループで発表し相互評価を行う。また、具体的な授業計画、施設設備の管理や安全指導について学ぶ。			
授業計画	第1回	教科書と学習指導要領① 教科書の種類と内容、教科書採択制度について理解する。		
	第2回	教科書と学習指導要領② 教科書の学習テーマと学習指導要領との対応について理解する。		
	第3回	技術分野の学習内容① 中学校学習指導要領の学習内容（A）と教科書の学習内容との比較及び教材の効果的な活用法について理解し、レポートにまとめる。		
	第4回	技術分野の学習内容② 中学校学習指導要領の学習内容（B）と教科書の学習内容との比較及び教材の効果的な活用法について理解し、レポートにまとめる。		
	第5回	技術分野の学習内容③ 中学校学習指導要領の学習内容（C）と教科書の学習内容との比較及び教材の効果的な活用法について理解し、レポートにまとめる。		
	第6回	技術分野の学習内容④ 中学校学習指導要領の学習内容（D）と教科書の学習内容との比較及び教材の効果的な活用法について理解し、レポートにまとめる。		
	第7回	技術分野の学習内容⑤ 中学校学習指導要領における配慮すべき事項や内容の取り扱いについて教科書と対比しながら理解する。		
	第8回	技術科に適した指導法① 整理・考察する学習活動について、先進事例を通して理解する。		
	第9回	技術科に適した指導法② 実践的・体験的活動について、先進事例を通して理解する。		
	第10回	技術科に適した指導法③ 情報機器を活用した指導方法の演習を行う。教示実験や演示の仕方について、グループでまとめる。		
	第11回	技術科に適した指導法④ グループで発表し、相互評価する。		
	第12回	技術科における授業計画① 授業計画の実際、板書計画、教材の活用、実習の計画、情報機器の活用について理解する。		
	第13回	技術科における授業計画② 学習指導案と授業の進め方の概要について理解する。		
	第14回	施設設備の安全管理① 技術室の施設設備の管理や安全指導について理解する。		
	第15回	施設設備の安全管理② 電気機器、農薬類、情報の管理について理解する。		
		アクティブ・ラーニング プレゼンテーション：1回 グループ協議：1回		
実務経験に基づく知識の伝達	担当者の学校教員経験により、実践的な授業デザインのアドバイスすることができる。			
学修・教育目標に対する科目の位置付け	中学校「技術」における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された教科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。（教育目標1） 授業時間：90分×15回 予習復習の時間：3時間×15回			
教科書	中学校学習指導要領解説 技術・家庭編（平成29年、文部科学省、開隆堂） 中学校新学習指導要領の展開 技術・家庭 技術分野編（平成29年11月、古川稔、明治図書） 新編 新しい技術・家庭 技術分野 未来を創るTechnology（平成29年2月、田口他、東京書籍）			
参考書	授業において指示する。			
評価基準及び成績評価方法	課題（70%）、発表（30%） 授業への積極的な参加態度などを総合的に判断する。			
達成度の伝達及び達成度評価	発表においては、毎回、講評を行う。レポートは、講評を記して返却する。 ◎達成度評価 （100）① 幅広い視野と技術者倫理の涵養			

	<input type="checkbox"/> ② コミュニケーション能力と表現力の涵養 <input type="checkbox"/> ③ 自然科学の理解 <input type="checkbox"/> ④ 専門知識の確実な修得と実務に応用できる能力の修得 <input type="checkbox"/> ⑤ 積極性と自己学修の習慣 <input type="checkbox"/> ⑥ 知識を統合し計画的に作業を進める能力の育成
資格情報	中学校教員免許第一種（技術）を取得するための選択科目である。
オフィスアワー	火曜日：11：00～12：00 2号館2階研究室
備考	「技術教育法Ⅰ」を受講したものに限る。中学校技術の教員志望者は、必ず受講すること。
履修登録条件	

講義科目名称：技術科教育法Ⅲ

英文科目名称：Methods of Technology Education 3

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	3年次	2単位	選択	講義
担当教員				
池守滋				
教職専門科目		中学校教諭一種免許状（技術）		

授業概要	教材の分析方法を学び、効果的な活用法を考察し、授業をデザインし、学習指導案を作成する。情報機器を活用した模擬授業を実施し、相互評価や振り返りを行う。			
授業計画	第1回	諸外国の技術科教育 諸外国の初等中等教育における技術教育について理解を深める。		
	第2回	技術科の学習指導案 技術科の学習指導案の構成について理解する。		
	第3回	教材分析と授業デザイン 教材の分析方法と効果的な活用法、授業デザインについて理解する。また、情報機器の活用法を理解する。		
	第4回	学習内容（A）の教材分析と授業デザイン① 教材の分析を行い、効果的な活用法を考察する。		
	第5回	学習内容（A）の教材分析と授業デザイン② 授業をデザインし、学習指導案を作成する。		
	第6回	学習内容（A）の教材分析と授業デザイン③ 情報機器を活用した模擬授業と振り返りを行う。		
	第7回	学習内容（B）の教材分析と授業デザイン① 教材の分析を行い、効果的な活用法を考察する。		
	第8回	学習内容（B）の教材分析と授業デザイン② 授業をデザインし、学習指導案を作成する。		
	第9回	学習内容（B）の教材分析と授業デザイン③ 情報機器を活用した模擬授業と振り返りを行う。		
	第10回	学習内容（C）の教材分析と授業デザイン① 教材の分析を行い、効果的な活用法を考察する。		
	第11回	学習内容（C）の教材分析と授業デザイン② 授業をデザインし、学習指導案を作成する。		
	第12回	学習内容（C）の教材分析と授業デザイン③ 情報機器を活用した模擬授業と振り返りを行う。		
	第13回	学習内容（D）の教材分析と授業デザイン① 教材の分析を行い、効果的な活用法を考察する。		
	第14回	学習内容（D）の教材分析と授業デザイン② 授業をデザインし、学習指導案を作成する。		
	第15回	学習内容（D）の教材分析と授業デザイン③ 情報機器を活用した模擬授業と振り返りを行う。 アクティブ・ラーニング プレゼンテーション：4回		
実務経験に基づく知識の伝達	担当者の学校教員経験により、実践的な授業デザインのアドバイスすることができる。			
学修・教育目標に対する科目の位置付け	中学校「技術」における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された教科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。（教育目標1） 授業時間：90分×15回 予習復習の時間：3時間×15回			
教科書	中学校学習指導要領解説 技術・家庭編（平成29年、文部科学省、開隆堂） 中学校新学習指導要領の展開 技術・家庭 技術分野編（平成29年11月、古川稔、明治図書） 新編 新しい技術・家庭 技術分野 未来を創るTechnology（平成29年2月、田口他、東京書籍）			
参考書	プリントを配布する。			
評価基準及び成績評価方法	課題（30%）、模擬授業（70%） 授業への積極的な参加態度などを総合的に判断する。			
達成度の伝達及び達成度評価	発表・模擬授業においては、毎回、講評を行う。レポートは、講評を記して返却する。 ◎達成度評価 (100) ① 幅広い視野と技術者倫理の涵養 () ② コミュニケーション能力と表現力の涵養 () ③ 自然科学の理解 () ④ 専門知識の確実な修得と実務に応用できる能力の修得			

	() ⑤ 積極性と自己学修の習慣 () ⑥ 知識を統合し計画的に作業を進める能力の育成
資格情報	中学校教諭一種免許状（技術）を取得するための科目である。
オフィスアワー	火曜日 13:00～14:00 2号館2階研究室
備考	「技術教育法Ⅰ」、「技術科教育法Ⅱ」を受講したものに限る。中学校技術の教員志望者は、必ず受講すること。
履修登録条件	

講義科目名称：技術科教育法Ⅳ

英文科目名称：Methods of Technology Education 4

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	3年次	2単位	必修	講義
担当教員				
池守滋				
教職専門科目		中学校教諭一種免許状（技術）		

授業概要	国の教育改革と技術教育の方向について学び、特別な支援が必要な生徒への指導方法や支援についても学ぶ。学校の地域や環境、季節などを考慮した実習テーマを提案し、模擬授業を行う。また、技術科における発展的内容について、先進事例を調査し、まとめる。それを基に発展的な学習テーマを提案し、模擬授業を行う。			
授業計画	第1回	新しい技術科教育 国の教育改革と技術教育の方向について理解を深める。		
	第2回	特別な支援が必要な生徒への配慮 技術分野において特別な支援が必要な生徒への指導や支援について理解する。		
	第3回	技術科の実習① 身近な課題の発見と解決を目指したテーマを提案する。		
	第4回	技術科の実習② 提案した学習テーマに沿った学習指導案を作成し、相互評価をする。実習における情報機器の活用方法について理解する。		
	第5回	技術科の実習③ 情報技術に関する実習の学習指導案を作成する。		
	第6回	技術科の実習④ 実習を伴う模擬授業を実施し、相互評価する。		
	第7回	技術科の実習⑤ 木材加工品に関する実習の学習指導案を作成する。		
	第8回	技術科の実習⑥ 実習を伴う模擬授業を実施し、相互評価する。実習を伴う授業についてまとめる。		
	第9回	教材、教具の工夫改善 技術科で使用される教材、教具について、先進事例を調査し、まとめる。		
	第10回	技術科における発展的内容① 技術科における発展的内容について、先進事例を調査し、まとめる。		
	第11回	技術科における発展的内容② 技術科における発展的内容について探求し、学習テーマを提案する。		
	第12回	技術科における発展的内容③ 発展的内容の学習指導案を作成する。		
	第13回	技術科における発展的内容④ 「材料と加工の技術」または「エネルギー変換の技術」に関する発展的内容の模擬授業を実施し、相互評価する。		
	第14回	技術科における発展的内容⑤ 「生物育成の技術」または「情報の技術」に関する発展的内容の模擬授業を実施し、相互評価する。		
	第15回	技術科教育の在り方 これからの技術科教員としての在り方について考究する。 アクティブ・ラーニング プレゼンテーション：4回 相互評価：4回 討議：1回		
実務経験に基づく知識の伝達	担当者の学校教員経験より、実践的な授業デザインのアドバイスすることができる。			
学修・教育目標に対する科目の位置付け	中学校「技術」における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された教科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。（教育目標1） 授業時間：90分×15回 予習復習の時間：3時間×15回			
教科書	中学校学習指導要領解説 技術・家庭編（平成29年、文部科学省、開隆堂） 中学校新学習指導要領の展開 技術・家庭 技術分野編（平成29年11月、古川稔、明治図書） 新編 新しい技術・家庭 技術分野 未来を創るTechnology（平成29年2月、田口他、東京書籍）			
参考書	適時、プリントを配布する。			
評価基準及び成績評価方法	模擬授業（50%）、レポート（50%） 授業への積極的な参加態度などを総合的に判断する。			
達成度の伝達及び達成度評価	発表・模擬授業においては、毎回、講評を行う。レポートは、講評を記して返却する。 ◎達成度評価 （100）① 幅広い視野と技術者倫理の涵養			

	<input type="checkbox"/> ② コミュニケーション能力と表現力の涵養 <input type="checkbox"/> ③ 自然科学の理解 <input type="checkbox"/> ④ 専門知識の確実な修得と実務に応用できる能力の修得 <input type="checkbox"/> ⑤ 積極性と自己学修の習慣 <input type="checkbox"/> ⑥ 知識を統合し計画的に作業を進める能力の育成
資格情報	中学校教諭一種免許状（技術）を取得するための必修科目である。
オフィスアワー	火曜日：11：00～12：00 2号館2階研究室
備考	「技術教育法Ⅰ」を受講したものに限る。中学校教諭一種免許（技術）の取得希望者は必ず受講すること。必ず第1回の授業に出席すること。正当な理由なく欠席した場合は履修を認めない。
履修登録条件	

講義科目名称： 道徳の指導法

英文科目名称： Methods on Moral Education

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	2年次	2単位	選択	講義
担当教員				
中山和彦				
教職専門科目	中学校教諭一種免許状（技術）			

授業概要	中学校で実践されている指導計画、指導案、資料等を提示しながら、中学校における道徳教育について理論と実践の両面から講義を行う。また、中学校における道徳授業のあり方や指導案作成の手順と方法について段階的に学ぶことができるようにする。さらには、毎時間「リアクションカード」作成・提出を行い、学生の理解度を確認して次回の講義の指導法改善につなげる。さらには、特別の教科道徳についての基本的な考え方や『私たちの道徳』活用の仕方についても講義で扱い、学生の理解を深める。
授業計画	<p>第1回 道徳を学ぶためのオリエンテーション ・道徳の語義</p> <p>第2回 道徳教育の歴史的変遷 ・道徳とは何かについて考える</p> <p>第3回 道徳と法 ・道徳と倫理 ・道徳とは何かについて自分なりの考えをまとめる</p> <p>第4回 道徳教育とは何か ・道徳性の正体を探る</p> <p>第5回 昭和33年道徳実施要綱から道徳教育と道徳の時間の特質を学ぶ</p> <p>第6回 改正学習指導要領における道徳教育の目標と内容を学ぶ</p> <p>第7回 なぜ、道徳の教科化が行われたか</p> <p>第8回 道徳の教科化はどのように行われたか</p> <p>第9回 特別の教科道徳の目標と内容</p> <p>第10回 特別の教科道徳、指導上の配慮事項</p> <p>第11回 特別の教科 道徳（道徳科）指導案作成の手順と方法（その1）</p> <p>第12回 特別の教科 道徳（道徳科）指導案作成の手順と方法（その2） 板書の基礎・基本（その1）</p> <p>第13回 特別の教科 道徳（道徳科）指導案作成の手順と方法（その3）（個別指導）</p> <p>第14回 道徳科の評価（基本的な考え方と方法）（その1） 作成した指導案を基にした模擬授業</p> <p>第15回 道徳科の評価（生徒の見取りの方法、指導要録及び通知表への所見の書き方）</p>
実務経験に基づく知識の伝達	
学修・教育目標に対する科目の位置付け	<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 学校教育全体を通して行われる道徳教育の意義を理解できるようにする。 2 道徳教育の要となる道徳の時間の意義と役割を理解できるようにする。 3 特別の教科道徳の目標と特質について理解できるようにする。 4 道徳授業の指導法を学ぶことにより、その基本と応用について理解できるようにする。 <p>授業時間：90分×15回 予習復習の時間：3時間×15回</p>
教科書	学習指導要領が一部改正されたため、担当者が資料を作成し配付する。
参考書	『私たちの道徳』（中学校）文部科学省
評価基準及び成績評価方法	<p>次のとおりとする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 定期試験点数 60% 2 リアクションカードの記述内容 30% (A 自身の考えが明確に記述 B 自身の考えが記述 C 講義内容のみ) 3 授業態度・発言 10%
達成度の伝達及び達成度評価	<p>リアクションカードに記述内容についての評価を明示し、コメントを記入して学生に返却することで伝達する。</p> <p>◎達成度評価 (100) ① 幅広い視野と技術者倫理の涵養</p>

	<input type="checkbox"/> ② コミュニケーション能力と表現力の涵養 <input type="checkbox"/> ③ 自然科学の理解 <input type="checkbox"/> ④ 専門知識の確実な修得と実務に応用できる能力の修得 <input type="checkbox"/> ⑤ 積極性と自己学修の習慣 <input type="checkbox"/> ⑥ 知識を統合し計画的に作業を進める能力の育成
資格情報	
オフィスアワー	
備考	
履修登録条件	

講義科目名称：総合的な学習の時間の指導法

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期集中	2年次	1単位	必修	講義
担当教員				
高橋知己				
教職専門科目	高等学校教諭一種免許状(工業)		高等学校教諭一種免許状(情報)	

授業概要	教科外の活動である総合的な学習の時間と特別活動は、児童生徒の自立を促し、自分たちで学級や学校の諸問題について探求し、解決しようとする意欲や態度を養うことを目指している。そうした活動は同時に仲間との協働を通して集団への所属感を高め社会性を陶冶することにもつながっていく。授業では、そうしたねらいの実現のための計画の立案や具体的な指導についての知識や技能を獲得できるようにアクティブラーニングの手法を取り入れながら、より実践的な学びを構築していく。
授業計画	<p>第1回 総合的な学習の時間と特別活動に関する学習指導要領のねらい</p> <p>第2回 総合的な学習の時間の意義と学習計画の立案</p> <p>第3回 問題解決のための実践の方法</p> <p>第4回 総合的な学習の時間と特別活動の評価のあり方</p> <p>第5回 特別活動の実際と学習指導要領のねらい</p> <p>第6回 特別活動の実践</p> <p>第7回 特別活動と生徒指導</p> <p>第8回 現代の教育課題への対処</p>
実務経験に基づく知識の伝達	
学修・教育目標に対する科目の位置付け	総合的な学習の時間及び特別活動の重要性や特質、学習指導要領の改訂趣旨、原理や指導方法などについて理解し、その楽しさや意義について学修することを目標とする。
教科書	文部科学省「学習指導要領解説」(最新)
参考書	授業中に示す。
評価基準及び成績評価方法	ミニレポート20%、レポート70%、議論への参加10%を総合的に判断する
達成度の伝達及び達成度評価	<p>◎達成度評価</p> <p>(100) ① 幅広い視野と技術者倫理の涵養</p> <p>() ② コミュニケーション能力と表現力の涵養</p> <p>() ③ 自然科学の理解</p> <p>() ④ 専門知識の確実な修得と実務に応用できる能力の修得</p> <p>() ⑤ 積極性と自己学修の習慣</p> <p>() ⑥ 知識を統合し計画的に作業を進める能力の育成</p>
資格情報	
オフィスアワー	
備考	
履修登録条件	

講義科目名称：特別支援教育論

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	2年次	1単位	必修	講義
担当教員				
森慶輔				
教職専門科目	高等学校教諭一種免許状(工業)	高等学校教諭一種免許状(情報)	中学校教諭一種免許状(技術)	

授業概要	特別の支援を必要とする児童生徒の特性と支援の方法について、また障害はないが特別の教育的ニーズのある児童生徒への支援の方法について概説する。
授業計画	<p>第1回 特別支援教育に関する制度の理念や仕組み 教科書の該当部分をあらかじめ読んでおく</p> <p>第2回 発達障害を中心とした特別の支援を必要とする児童生徒の心身の発達、心理的特性、学習の過程 教科書の該当部分をあらかじめ読んでおく</p> <p>第3回 さまざまな障害のある児童生徒の学習上、生活上の困難 教科書の該当部分をあらかじめ読んでおく</p> <p>第4回 発達障害を中心とした特別の支援を必要とする児童生徒に対する支援 教科書の該当部分をあらかじめ読んでおく</p> <p>第5回 「通級による指導」と「自立活動」 教科書の該当部分をあらかじめ読んでおく</p> <p>第6回 個別の指導計画と個別の教育支援計画 教科書の該当部分をあらかじめ読んでおく</p> <p>第7回 学校と関係機関等との連携による支援体制 教科書の該当部分をあらかじめ読んでおく</p> <p>第8回 まとめ（試験と解説を含む）</p> <p>アクティブラーニング 講義8回</p>
実務経験に基づく知識の伝達	スクールカウンセラー経験のある授業担当者が、全授業回を担当し、特別な支援を必要とする児童生徒への指導のあり方について講義する。
学修・教育目標に対する科目の位置付け	<p>通常の学級にも在籍している発達障害や軽度知的障害をはじめとする様々な障害等により特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒が授業において学習活動に参加している実感・達成感をもちながら学び、生きる力を身に付けていくことができるよう、幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を理解する。</p> <p>授業時間：90分×8回 予習復習の時間：3時間×8回</p>
教科書	北島善夫・武田明典 編著「教師と学生が知っておくべき特別支援教育」北樹出版、2019年
参考書	講義内で適宜紹介する
評価基準及び成績評価方法	授業への出席を前提として、定期考査により評価する予定だが、別の手段に変更する可能性もある。変更する場合は事前に周知する。
達成度の伝達及び達成度評価	定期試験の回答例を示す。
資格情報	中学校、高等学校教諭一種免許状取得のための必修科目である。
オフィスアワー	後日掲示にて周知する。
備考	2019年度以降入学生の科目である。2018年度以前の入学生が本科目の履修を希望する場合は担当教員および教務課に相談すること。
履修登録条件	

講義科目名称：特別活動の指導法

英文科目名称：Strategies for Teaching Special Activities

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	2年次	1単位	必修	講義
担当教員				
黒羽正見				
教職専門科目	高等学校教諭一種免許状(工業)		高等学校教諭一種免許状(情報)	

授業概要	理論と実践の往還を図りながら、以下の通り、学校の特別活動を実践的に理解する。 1. 学校生活の基盤をなす特別活動を創る教師の在り方・生き方 2. 特別活動の目標や内容、各教科、道徳、総合的な学習の時間、生徒指導等とのかかわり 3. 学校における教育課程の編成、実施、評価の在り方 4. 特別活動の実際の指導の進め方 5. 家庭・学校・地域社会と特別活動の関係
授業計画	<p>第1回 特別活動の目標と基本的な性格</p> <p>第2回 学校の教育課程の編成・実施と特別活動</p> <p>第3回 H L ・生徒会・学校行事の活動内容と特質</p> <p>第4回 特別活動の実際の進め方</p> <p>第5回 学級経営・H L 経営の機能とその生かし方</p> <p>第6回 特別活動の評価</p> <p>第7回 学校における特別活動の仕組み、生徒指導、教科指導と特別活動、道徳教育と特別活動</p> <p>第8回 特別活動の指導方法とホームルームの構成者としての教師</p>
実務経験に基づく知識の伝達	小中学校の実務経験を生かして、郡読や学校コンクール等の具体的な学校行事のカリキュラムマネジメントを経験させながら、教育課程の基盤をなす特別活動における学級づくりの方法に関して理解できるようにする。
学修・教育目標に対する科目の位置付け	カリキュラムの中での特別活動の意義と指導法を理解し、実践的指導力をつける。 授業時間：90分×8回 予習復習の時間：3時間×8回
教科書	稲垣応顕・黒羽正見編『学際型現代学校教育概論』
参考書	中学校学習指導要領解説（特別活動）平成29年7月 東山書房
評価基準及び成績評価方法	①毎時間の課題に対する振り返りシートの内容、②課題レポート、③毎回の課題に対するグループの学び合いの意欲態度等を参考に する。総合点は①が30%、②が30%、③が40%である。
達成度の伝達及び達成度評価	第8回のまとめに、ホームルームの構成者としての「模擬授業」を行い、クラス担任として生徒との教育的関係が構築できるか否かで、達成度を見取る。 ◎達成度評価 (100) ① 幅広い視野と技術者倫理の涵養 () ② コミュニケーション能力と表現力の涵養 () ③ 自然科学の理解 () ④ 専門知識の確実な修得と実務に応用できる能力の修得 () ⑤ 積極性と自己学修の習慣 () ⑥ 知識を統合し計画的に作業を進める能力の育成
資格情報	
オフィスアワー	
備考	
履修登録条件	

講義科目名称：教育の方法と技術

英文科目名称：Methods and Strategies of Teaching

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	2年次	2単位	必修	講義
担当教員				
久保田善彦				
教職専門科目		高等学校教諭一種免許状(工業)	高等学校教諭一種免許状(情報)	

授業概要	ある人の知識を他の人に伝える。このような知識の伝達は、教育において当たり前に行われているが、実は非常に困難であり、不可能ともいえる行為である。しかしながら、教育に従事する者は、その工夫と研究により、困難を取り除き、不可能を可能としてきた。本講義では、これら工夫と研究により生み出された教育の方法と技術を、歴史や発展といった背景的知識および機能や役割といった理論的知識を踏まえつつ、体験的に修得していく。
授業計画	<p>第1回 学習とは何か？ ・アクティブ・ラーニングとは何か？</p> <p>第2回 思考を外に出す（1） ・概念地図， マインドマップ， イメージマップ</p> <p>第3回 思考を外に出す（2） ・運勢ライン法</p> <p>第4回 リアルな課題と子どもの願い・思い</p> <p>第5回 学習意欲</p> <p>第6回 マイクロティーチング</p> <p>第7回 協調学習（1） ・学びの共同体の基本構造</p> <p>第8回 協調学習（2） ・知識構成型ジグソー学習法</p> <p>第9回 授業研究（3） ・タブレットを使った協働と個の学習</p> <p>第10回 指導案作成と授業研究</p> <p>第11回 ワークシートのデザイン</p> <p>第12回 ゲーミフィケーションとゲーム教材（1） ・ゲームを作成</p> <p>第13回 ゲーミフィケーションとゲーム教材（2） ・相互評価</p> <p>第14回 真正な評価（ポートフォリオ・パフォーマンス）</p> <p>第15回 自分の学びを振り返る</p>
実務経験に基づく知識の伝達	
学修・教育目標に対する科目の位置付け	<p>(1) 知識伝達の困難性を適切に認識し、教育の方法と技術がいかなる目的をもって生み出されてきたかについて説明できる。 (2) 機能や役割といった教育方法に関する基礎を体験的に理解した上で、教育方法に関連する応用的な課題群・問題群に自分なりの答えを導くことができる。</p> <p>授業時間：90分×15回 予習復習の時間：3時間×15回</p>
教科書	特に指定しない。
参考書	講義内で適宜紹介する。
評価基準及び成績評価方法	小テスト(40%)：講義内容について、各回小テストを行う。 定期試験(60%)：講義全体の内容について、試験を行う。
達成度の伝達及び達成度評価	<p>小テスト、定期試験の解答例を受講学生に示す。</p> <p>◎達成度評価 (100) ① 幅広い視野と技術者倫理の涵養 () ② コミュニケーション能力と表現力の涵養 () ③ 自然科学の理解 () ④ 専門知識の確実な修得と実務に応用できる能力の修得 () ⑤ 積極性と自己学修の習慣 () ⑥ 知識を統合し計画的に作業を進める能力の育成</p>

資格情報	
オフィスアワー	
備考	
履修登録条件	

講義科目名称：生徒・進路指導論

英文科目名称：Theory of Pupil Guidance

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	2年次	2単位	選択	講義
担当教員				
森慶輔				
教職専門科目	高等学校教諭一種免許状(工業)	高等学校教諭一種免許状(情報)	中学校教諭一種免許状(技術)	

授業概要	学校における生徒指導の意義、生徒指導の基礎を理解させるとともに、進路指導（キャリア教育）の意義について、生徒指導との関連の中で理解させる。特に近年問題となっている不登校、いじめの問題に対応できる実践力を身につけることを目指す。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 生徒指導の意義と課題 生徒指導提要の該当する部分を読んでおく。</p> <p>第3回 生徒指導体制と生徒指導計画 生徒指導提要の該当する部分を読んでおく。</p> <p>第4回 生活指導の展開—生活指導の類型と今日の課題 生徒指導提要の該当する部分を読んでおく。</p> <p>第5回 生徒を取り巻く環境の変化と生徒指導 生徒指導提要の該当する部分を読んでおく。</p> <p>第6回 第2回から第5回のまとめ（授業内テストを含む） 配布資料を読んでおく。</p> <p>第7回 不登校・引きこもりへの指導援助（1）現状と背景 発表者はプレゼンテーションの準備をしておく。それ以外の学生は各種ホームページで不登校・引きこもりの現状を調べておく。</p> <p>第8回 不登校・引きこもりへの指導援助（2）中学校 発表者はプレゼンテーションの準備をしておく。それ以外の学生は各種ホームページで中学校における不登校の現状を調べておく。</p> <p>第9回 不登校・引きこもりへの指導援助（3）高等学校 発表者はプレゼンテーションの準備をしておく。それ以外の学生は各種ホームページで高等学校における不登校の現状を調べておく。</p> <p>第10回 いじめへの指導援助（1）いじめをどう捉えるか 発表者はプレゼンテーションの準備をしておく。それ以外の学生は各種ホームページでいじめの定義を調べておく。</p> <p>第11回 いじめへの指導援助（2）いじめの現状と背景 発表者はプレゼンテーションの準備をしておく。それ以外の学生は各種ホームページでいじめの現状を調べておく。</p> <p>第12回 いじめへの指導援助（3）いじめへの対応 発表者はプレゼンテーションの準備をしておく。それ以外の学生は各種ホームページでいじめの対応策を調べておく。</p> <p>第13回 進路指導・キャリア教育（1）中学校 文部科学省のホームページで中学校での進路指導・キャリア教育を調べておく。</p> <p>第14回 進路指導・キャリア教育（2）高等学校 文部科学省のホームページで高等学校での進路指導・キャリア教育を調べておく。</p> <p>第15回 第7回から第14回のまとめ（授業内テストを含む）</p> <p>アクティブラーニング 講義9回、プレゼンテーションおよびディスカッション6回</p>
実務経験に基づく知識の伝達	スクールカウンセラーとして学校現場で勤務した経験のある教員が、生徒指導のあり方について指導する。
学修・教育目標に対する科目の位置付け	学校教育の教育課程（カリキュラム）のなかで生徒指導および進路指導についての理解と実践的指導力をつける。 授業時間：90分×15回 予習復習の時間：3時間×15回
教科書	文部科学省「生徒指導提要」教育出版、2011年 本間友巳（編著）「学校臨床」金子書房、2012年
参考書	講義の際に適宜指示する。
評価基準及び成績評価方法	授業への出席を前提として、レポート（60%）と授業内課題（40%）により評価する予定だが、別的手段に変更する可能性もある。変更する場合は事前に周知する。
達成度の伝達及び達成度評価	授業内テストは解答解説を行う。発表についてはディスカッション時に伝達するよう努める。 ◎達成度評価 () ① 幅広い視野と技術者倫理の涵養 () ② コミュニケーション能力と表現力の涵養 () ③ 自然科学の理解 (100) ④ 専門知識の確実な修得と実務に応用できる能力の修得 () ⑤ 積極性と自己学修の習慣

	() ⑥ 知識を統合し計画的に作業を進める能力の育成
資格情報	中学校教諭一種免許状（技術）、高等学校教諭一種免許状（工業、情報）を取得するために必要な科目である。
オフィスアワー	別途指示する。
備考	シラバスのうち授業計画は一部変更する予定である。変更後の授業計画は講義内で示す。
履修登録条件	

講義科目名称：教育相談

英文科目名称：Consultation in Education

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	2年次	2単位	必修	講義
担当教員				
森慶輔				
教職専門科目	高等学校教諭一種免許状(工業)	高等学校教諭一種免許状(情報)	中学校教諭一種免許状(技術)	

授業概要	いじめ、不登校や児童虐待など、学校内外における児童生徒の諸問題は様々な形で現れており、対応する教師側の学校教育相談・教育臨床に関する知識、スキルの習得が求められている。本講義では、学校で行なわれる教育相談・教育臨床の機能、位置づけ、役割、方法などについて概略を説明し、さらに具体的課題として、不登校、いじめ、発達障害などのトピックスを取り上げ、教師の行なうべき対応方法や対策について理解を深めていくことを目指す。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 生徒指導と教育相談の現状と課題 生徒指導提要（文部科学省HPに掲載されている）に目を通しておくとともに、学校教育における教育相談の位置づけ、スクールカウンセラー制度について文部科学省ホームページなどで調べておく</p> <p>第3回 教育相談の理論と実際（1）カウンセリングとコンサルテーションの技法 教育相談やカウンセリングなどの書籍に目を通しておく</p> <p>第4回 教育相談の理論と実際（2）教育相談の実際 教育相談やカウンセリングなどの書籍に目を通しておく</p> <p>第5回 暴力行為 発表者は準備をし、それ以外の受講者は教科書の該当箇所に目を通しておく</p> <p>第6回 外国人児童生徒への対応 発表者は準備をし、それ以外の受講者は教科書の該当箇所に目を通しておく</p> <p>第7回 児童虐待 発表者は準備をし、それ以外の受講者は教科書の該当箇所に目を通しておく</p> <p>第8回 発達障害 発表者は準備をし、それ以外の受講者は教科書の該当箇所に目を通しておく</p> <p>第9回 精神疾患 発表者は準備をし、それ以外の受講者は教科書の該当箇所に目を通しておく</p> <p>第10回 性の課題 発表者は準備をし、それ以外の受講者は教科書の該当箇所に目を通しておく</p> <p>第11回 保護者対応 発表者は準備をし、それ以外の受講者は教科書の該当箇所に目を通しておく</p> <p>第12回 学校危機（緊急支援） 発表者は準備をし、それ以外の受講者は教科書の該当箇所に目を通しておく</p> <p>第13回 子どもの貧困 発表者は準備をし、それ以外の受講者は教科書の該当箇所に目を通しておく</p> <p>第14回 子どもの自殺 発表者は準備をし、それ以外の受講者は教科書の該当箇所に目を通しておく</p> <p>第15回 まとめ 今までの資料等に目を通しておく アクティブラーニング 講義5回、プレゼンテーションおよびディスカッション10回</p>
実務経験に基づく知識の伝達	スクールカウンセラーとして学校現場で勤務した経験のある教員が、教育相談全般について指導する。
学修・教育目標に対する科目の位置付け	本科目は中学校教諭一種免許状（技術）、高等学校教諭一種免許状（工業、情報）取得のための必修科目として位置づけられている。そのため、受講生には将来教師として生徒指導、教育相談を行う上で必要最低限の知識技術を身につけることが求められる。 授業時間：90分×15回 予習復習の時間：3時間×15回
教科書	文部科学省「生徒指導提要」教育出版、2011年 本間友巳（編著）「学校臨床 子どもをめぐる課題への視座と対応」金子書房、2012年
参考書	講義内で適宜指示する。
評価基準及び成績評価方法	1) 授業内での課題発表（プレゼンテーション）を40%、レポートを60%として総合的に評価する。 2) 科目の性質上、欠席や遅刻が目立つ、受講態度が芳しくないなど、教職を目指す上で不適格であると判断される場合は単位を認定しない。
達成度の伝達及び達成度評価	授業内でそのつど伝達するように努める。 ◎達成度評価 () ① 幅広い視野と技術者倫理の涵養 () ② コミュニケーション能力と表現力の涵養 () ③ 自然科学の理解

	(100) ④ 専門知識の確実な修得と実務に応用できる能力の修得 <input type="checkbox"/> ⑤ 積極性と自己学修の習慣 <input type="checkbox"/> ⑥ 知識を統合し計画的に作業を進める能力の育成
資格情報	中学校教諭一種免許状（技術）、高等学校教諭一種免許状（工業、情報）を取得するために必要な科目である。
オフィスアワー	別途指示する。
備考	1) 教職課程を履修する以上は、将来教職に就くことを真剣に考えた上で受講されたい。 2) 授業内で課題発表を行うが、自分の担当箇所の発表に責任を持って取り組むこと。（発表を無断で欠席する、など無責任な行為が認められた場合は単位を認定しない。） 3) 第5回から第14回は順不同に並べてある。学生と協議の上、第5回から第14回の内容の順番を決める。
履修登録条件	

講義科目名称：教職実践演習(中・高)

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	4年次	2単位	必修	演習
担当教員				
池守滋, 森慶輔				
教職専門科目	高等学校教諭一種免許状(工業)	高等学校教諭一種免許状(情報)	中学校教諭一種免許状(技術)	

授業概要	教育実習の振り返りを行い、自身が担当した講義の課題を明確にし、それを克服するにはどのように講義を組み立て、進めればよいかを模擬授業を通じて学ぶ。 現代の中学校あるいは高等学校が抱える教育問題について文部科学省等の資料から理解を深め、その対応策について受講学生間のディスカッションを通じて考える。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス 教育実習全般の振り返りと自己の課題の把握</p> <p>第2回 学習指導案 教育実習で作成した学習指導案について、再検討を行い、バージョンアップをする。</p> <p>第3回 教材の作成と使用 授業を行う上で、よりよい資料や教材について調査、検討を行う。</p> <p>第4回 模擬授業の実施とディスカッション① 機械系の模擬授業とディスカッションを行う。</p> <p>第5回 模擬授業の実施とディスカッション② 電気系の模擬授業とディスカッションを行う。</p> <p>第6回 模擬授業の実施とディスカッション③ 建築・土木系の模擬授業とディスカッションを行う。</p> <p>第7回 模擬授業の実施とディスカッション④ 情報系の模擬授業とディスカッションを行う。</p> <p>第8回 模擬授業の実施とディスカッション⑤ 共通教科の模擬授業とディスカッションを行う。</p> <p>第9回 学習指導に関するまとめ 単元の理解、授業方法や教材について、まとめる。</p> <p>第10回 不登校・中途退学に関する理解を深める 不登校及び高校の中途退学について、資料からまとめる。また、特別な支援が必要な生徒についても理解を深める。</p> <p>第11回 家庭問題に関する理解を深める 生徒が起こす学校内外での諸問題は、家庭に起因することが多い。近年の資料からまとめる。</p> <p>第12回 いじめ・暴力問題に関する理解を深める いじめ・暴力問題について、近年の資料からまとめ、グループで協議する。</p> <p>第13回 学力問題に関する理解を深める 学力とその評価についての理解を深め、我が国の学力に関する諸問題について理解する。</p> <p>第14回 教師をめぐる問題に関する理解を深める 現在の様々な教師・学校を取り巻く問題について、資料を用いて調べ、まとめる。</p> <p>第15回 まとめ 教職について、まとめる。場合によっては、学校の管理職より講義いただく。 アクティブ・ラーニング プレゼンテーション：5回 ディスカッション：5回</p>
実務経験に基づく知識の伝達	担当者は、高等学校教員の経験があり、実践的な授業デザインについてアドバイスすることができる。
学修・教育目標に対する科目の位置付け	4年間の教職課程の最終段階として、また教育実習の成果を踏まえ、教員となるために必要な知識技能を修得したことを再確認し、さらに、補完が必要な部分を補い、教師としての資質の向上を図る。 (教育目標5) 授業時間：90分×15回 予習復習の時間：3時間×15回
教科書	「足利大学教育実習録」
参考書	特になし
評価基準及び成績評価方法	授業への取り組みとディスカッションの内容で評価する。ただし、模擬授業を最低1回行っていることを単位認定の条件とする。
達成度の伝達及び達成度評価	授教職課程の最終科目として、4年次の教育実習での経験をふまえ、自身の課題を明確にしつつ、それを克服するための方策を検討する。将来教壇に立ち、学習指導・生徒指導がスムーズに実施できるようにする。 授業中の発表に対するコメントなどを通じて随時行う。 ◎達成度評価 () ① 幅広い視野と技術者倫理の涵養

	(30)② コミュニケーション能力と表現力の涵養 () ③ 自然科学の理解 () ④ 専門知識の確実な修得と実務に応用できる能力の修得 (70)⑤ 積極性と自己学修の習慣 () ⑥ 知識を統合し計画的に作業を進める能力の育成
資格情報	中学校教員免許第一種（技術）、高等学校教諭一種免許状（工業）、高等学校教諭一種免許状（情報）を取得するための必修科目である。
オフィスアワー	火曜日：11：00～12：00 2号館2階研究室
備考	教育実習終了者のみ受講できる。
履修登録条件	

講義科目名称：教育実習 I

英文科目名称：Teaching Practice 1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	4年次	2単位	必修	実習
担当教員				
池守滋, 森慶輔				
教職専門科目		高等学校教諭一種免許状(工業)	高等学校教諭一種免許状(情報)	

授業概要	教育実習において、生徒や学習環境等に対して適切な観察を行うとともに、学校実務に対する補助的な役割を担うことを通して、教育実習校の生徒の実態と、これを踏まえた学校経営及び教育活動の特色を理解する。また、大学で学んだ教科や教職に関する専門的な知識・理論・技術等を、各教科や教科外活動の指導場面で実践するための基礎を修得する。(複数)			
授業計画	第1回	実習校について 教育実習校の学校経営方針及び特色ある教育活動並びにそれらを実施するための組織体制について理解する。		
	第2回	生徒指導 授業ばかりでなく、様々な場面における生徒との関わりを通して、その実態や課題を把握する。		
	第3回	教員の仕事 教員の校務について理解し、文書の処理について指導教員等から指導を受ける。		
	第4回	教科外活動 昼休みや放課後などに教科指導以外の様々な活動の場面で適切に生徒と関わる。		
	第5回	学級担任① 学級担任等の補助的な役割を担うことができる。		
	第6回	学級担任② 学級担任等の補助的な役割を担い、生徒とのコミュニケーションを円滑に図ることができる。		
	第7回	授業観察① 指導教員等の実施する授業を視点を持って観察し、事実即して記録する。		
	第8回	授業観察② 指導教員等の実施する授業を視点を持って観察し、事実即して記録する。		
	第9回	授業実践① 学習指導に必要な基礎的技術(話法・板書・学習形態・授業展開・環境構成など)を実地に即して身に付ける。		
	第10回	授業実践② 学習指導に必要な基礎的技術(話法・板書・学習形態・授業展開・環境構成など)を実地に即して身に付けるとともに、適切な場面で情報機器を活用することができるようにする。		
	第11回	授業実践③ 学習指導に必要な基礎的技術(話法・板書・学習形態・授業展開・環境構成など)を身に付けるとともに、主体的・対話的な授業が実践できるようにする。		
	第12回	研究授業① 学習指導要領及び生徒の実態等を踏まえた適切な学習指導案を作成する。		
	第13回	研究授業② 作成した学習指導案について、指導教員等から指導を受け、改善する。		
	第14回	研究授業③ 研究授業を実践する。		
	第15回	研究授業④ 研究授業の振り返りを行い、指導教員等からの指導を受ける。		
実務経験に基づく知識の伝達				
学修・教育目標に対する科目の位置付け	教育実習は、観察・参加・実習という方法で教育実践に関わることを通して、教育者としての愛情と使命感を深め、将来教員になる上での能力や適性を考えるとともに課題を自覚する。一定の実践的指導力を有する指導教員のもとで体験を積み、学校教育の実際を体験的・総合的に理解し、教育実践ならびに教育実践研究の基礎的な能力と態度を身に付ける。(教育目標5) 授業時間：90分×15回 予習復習の時間：3時間×15回			
教科書	「足利大学教育実習録」 高等学校の担当教科科目の教科書 中学校の技術分野の教科書			
参考書	学校案内、HP資料など			
評価基準及び成績評価方法	基本的には教育実習校における評価に基づく。事前指導・事後指導への参加状況も参考に大学として最終評価をする。			
達成度の伝達及び達成度評価	事後指導において伝える。 ◎達成度評価 () ① 幅広い視野と技術者倫理の涵養 () ② コミュニケーション能力と表現力の涵養 () ③ 自然科学の理解 () ④ 専門知識の確実な修得と実務に応用できる能力の修得			

	(100)⑤ 積極性と自己学修の習慣 ()⑥ 知識を統合し計画的に作業を進める能力の育成
資格情報	中学校教員免許第一種（技術）、高等学校教諭一種免許状（工業）、高等学校教諭一種免許状（情報）を取得するための必修科目である。
オフィスアワー	火曜日：13：00～14：00 2号館2階研究室
備考	「教育実習事前・事後指導」を必ず受講すること。 これまでの学習の成果を振り返って、確認しておくこと。 中学校または高校の該当する教科書を読んでおくこと。 実習校について、地域の特色やHP、学校案内等を調べておくこと。
履修登録条件	

講義科目名称：教育実習Ⅱ

英文科目名称：Teaching Practice 1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	4年次	2単位	選択	実習
担当教員				
池守滋, 森慶輔				
教職専門科目		中学校教諭一種免許状（技術）		

授業概要	「教育実習Ⅰ」を基に、生徒や学習環境等に対して適切な観察を行うとともに、学校実務に対する補助的な役割を担うことを通して、教育実習校の生徒の実態と、これを踏まえた学校経営及び教育活動の特色を理解する。また、大学で学んだ教科や教職に関する専門的な知識・理論・技術等を、各教科や教科外活動の指導場面で実践するための基礎を修得する。（複数）			
授業計画	第1回	実習校について 教育実習校の学校経営方針及び特色ある教育活動並びにそれらを実施するための組織体制について理解する。		
	第2回	生徒指導 授業ばかりでなく、様々な場面における生徒との関わりを通して、その実態や課題を把握する。		
	第3回	教員の仕事 教員の校務について理解し、文書の処理について指導教員等から指導を受ける。		
	第4回	教科外活動 昼休みや放課後などに教科指導以外の様々な活動の場面で適切に生徒と関わる。		
	第5回	学級担任① 朝や帰りの学級指導を通して、学級担任等の補助的な役割を担うことができる。		
	第6回	学級担任② 給食指導や清掃指導などを通して、学級担任等の補助的な役割を担うことができる。 また、特別な支援を必要とする生徒に対する配慮などを観察し、実践的に理解する。		
	第7回	教科指導 指導教員等の実施する「技術」の授業を視点を持って観察し、事実即して記録する。		
	第8回	授業観察 指導教員やベテラン教員の実施する授業を視点を持って観察し、事実即して記録し、自らの授業に生かせるようにする。		
	第9回	授業実践① 学習指導に必要な基礎的技術（話法・板書・学習形態・授業展開・環境構成など）を実地に即して身に付ける。		
	第10回	授業実践② 学習指導に必要な基礎的技術（話法・板書・学習形態・授業展開・環境構成など）を実地に即して身に付けるとともに、適切な場面で情報機器を活用することができるようにする。		
	第11回	授業実践③ 学習指導に必要な基礎的技術（話法・板書・学習形態・授業展開・環境構成など）を実地に即して身に付けるとともに、適切な実習の指導ができるようにする。		
	第12回	研究授業① 学習指導要領及び生徒の実態等を踏まえた適切な学習指導案を作成する。		
	第13回	研究授業② 作成した学習指導案について、指導教員等から指導を受け、改善する。教材や実習の工具・材料を準備する。		
	第14回	研究授業③ 研究授業を実践する。		
	第15回	研究授業④ 研究授業の振り返りを行い、指導教員等からの指導を受ける。		
実務経験に基づく知識の伝達				
学修・教育目標に対する科目の位置付け	教育実習は、観察・参加・実習という方法で教育実践に関わることを通して、教育者としての愛情と使命感を深め、将来教員になる上での能力や適性を考えるとともに課題を自覚する。一定の実践的指導力を有する指導教員のもとで体験を積み、学校教育の実際を体験的・総合的に理解し、教育実践ならびに教育実践研究の基礎的な能力と態度を身に付ける。（教育目標5） 授業時間：90分×15回 予習復習の時間：3時間×15回			
教科書	「足利大学教育実習録」			
参考書	学校案内、中学校技術分野教科書			
評価基準及び成績評価方法	基本的には教育実習校における評価に基づく。事前指導・事後指導への参加状況も参考に大学として最終評価をする。			
達成度の伝達及び達成度評価	事後指導において伝える。 ◎達成度評価 () ① 幅広い視野と技術者倫理の涵養 () ② コミュニケーション能力と表現力の涵養 () ③ 自然科学の理解 () ④ 専門知識の確実な修得と実務に応用できる能力の修得 (100) ⑤ 積極性と自己学修の習慣			

	() ⑥ 知識を統合し計画的に作業を進める能力の育成
資格情報	中学校教員免許第一種（技術）を取得するための必修科目である。
オフィスアワー	火曜日：13：00～14：00 2号館2階研究室
備考	「教育実習Ⅱ」は、「教育実習Ⅰ」を終了したものに限る。
履修登録条件	

講義科目名称：事前及び事後の指導

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	4年次	1単位	必修	講義
担当教員				
池守滋, 森慶輔				
教職専門科目	高等学校教諭一種免許状(工業)	高等学校教諭一種免許状(情報)	中学校教諭一種免許状(技術)	

授業概要	事前指導では、講義及び演習を通して教育実習生として学校の教育活動に参画する意識を高める。また、先輩教師または県教育委員会の指導主事による講話を聞き、教育実習の意義を理解する。事後指導では、教育実習で得られた成果と課題等を省察するとともに、まとめ、報告し、互いに評価を行う。
授業計画	<p>第1回 教育実習への心構え 教育実習を行う上での心構えを理解する。 (受け入れ先としての現場の先輩教師、県教育委員会の指導主事などから講話をしていただく。)</p> <p>第2回 教育実習生としてのマナー 教育実習生としてのマナーを身に付ける。</p> <p>第3回 学校での一日 教員としての業務や担任としての一日の業務を理解する。</p> <p>第4回 実習校について 実習校の歴史や特色、教育課程などを調べ、まとめる。</p> <p>第5回 研究授業 教育実習における研究授業について、準備をする。</p> <p>第6回 教育実習報告① 教育実習の報告を行う。受講者による評価を行う。</p> <p>第7回 教育実習報告② 教育実習の報告を行う。受講者による評価を行う。</p> <p>第8回 教育実習の成果と課題 教育実習における成果と課題をまとめ、今後の課題として明確にする。 アクティブ・ラーニング プレゼンテーション 2回</p>
実務経験に基づく知識の伝達	教育委員会または学校現場の教員から、教育実習における心構え等を講話いただき、実際の注意点や準備事項を聞く。担当教員は、高等学校の教員経験があり、これまでの教育実習生の受入れ実績より、望ましい教育実習の在り方について講義する。
学修・教育目標に対する科目の位置付け	教育実習生として遵守すべき義務等について理解するとともに、その責任を自覚する。また、教育実習を通して得られた知識と経験を振り返り、教員免許取得に当たって、さらに必要な知識や技能等を理解する。(教育目標5) 授業時間：90分×15回 予習復習の時間：3時間×15回
教科書	足利大学「教育実習録」
参考書	実習生・受入れ校必携 「教育実習完璧ガイド」(小学館)
評価基準及び成績評価方法	講義への参加態度、準備、発表、報告書にて総合的に評価する。
達成度の伝達及び達成度評価	◎達成度評価 () ① 幅広い視野と技術者倫理の涵養 () ② コミュニケーション能力と表現力の涵養 () ③ 自然科学の理解 () ④ 専門知識の確実な修得と実務に応用できる能力の修得 (100) ⑤ 積極性と自己学修の習慣 () ⑥ 知識を統合し計画的に作業を進める能力の育成
資格情報	中学校教諭一種免許状(技術)、高等学校教諭一種免許状(工業)、高等学校教諭一種免許状(情報)を取得するための必修科目である。
オフィスアワー	火曜日：13:00～14:00 2号館2F研究室
備考	「教育実習Ⅰ」「教育実習Ⅱ」の事前・事後の科目であるので、必ず受講すること。
履修登録条件	